

歌の流行傾向から見る時代の移り変わり

抄 録

本研究では平成後期から現在（2022年）の日本の歌の流行は、時代背景とどのように関わっているのかを明らかにし、近い将来（2022年現在から）どのような曲が流行するのかを予想する。

そこで、歌詞に含まれる感情を年ごとに分類し、音楽的にどのように変化をしているのかを調査した。その結果、社会背景と歌詞の内容、音楽的な変化には関係性があった。またサブスクリプション型のサービスが開始されたことで、様々なアーティストの音楽を幅広く聴く時代になったことがわかった。近い将来は（2022年現在から）、時代背景にあった曲が好まれながら今までになかった様々な形の音楽が積極的に生み出され好まれていくだろう。

キーワード：流行歌、感情、時代

1. はじめに

1.1 研究動機

「歌は世につれ世は歌につれ」という言葉がある。この言葉には歌は世の成り行きにつれて変化し世のありさまも世の歌の流行に影響されるという意味がある。よく歌われる流行歌は、その時代の世の中のありさまを映し出す鏡のようであるといった意味がこの言葉には込められている。この言葉を知り、実際に流行歌からその時代のありさまを読み取れるのか疑問に思った。

大出、松本、金子（2013）は1978～2012年の流行歌において、歌詞の内容の変化の要因として当時の経済的背景や社会背景が関係していると述べている。これは昭和から平成中期のみの考察であり、平成後期以降から現在（2022年）までの詳しい考察がされていなかった。また音楽的な変化についても考慮されていなかった。そこで平成後期以降を範囲とし、音楽的な変化についても明らかにしたいと思い今回の研究テーマとした。

1.2 研究目的

平成後期以降の流行歌において、各年の時代背景と流行歌の歌詞の内容、音楽的な変化には関係性があり時代ごとにどのような曲が好まれて聴かれていたのかを明確にする。そして、その考察により出された歌の流行傾向をもとに近い将来どのような曲が流行するのかを予想する。

2. 基本情報

2.1 Billboard JAPAN HOT 100

CDセールス、ダウンロード数、ストリーミング回数、ラジオ再生回数、動画再生回数、ルックアップ回数（PCへのCD読み取り数）、楽曲名とアーティストのツイート回数、カラオケ歌唱回数（2019年度から）の8種類のデータからなる国内唯一の総合音楽チャート。

2.2 プルチックの感情の輪

アメリカの心理学者ロバートプルチックによって提唱された理論。

プルチック氏は人間にも動物にも共通する8つの基本感情（喜び・信頼・恐れ・驚き・悲しみ・嫌悪・怒り・期待）を一次感情とし、2つの基本感情から生まれる混合感情を二次感情とした。

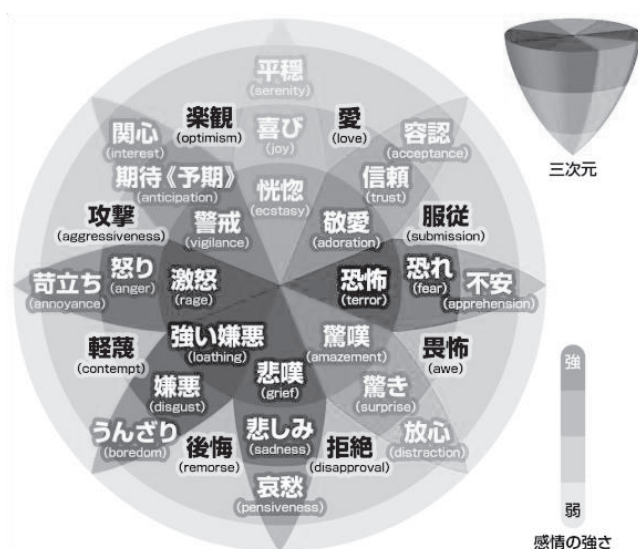


図1：プルチックの感情の輪

2.3 メトロノーム記号

楽曲の演奏される速度を指示する記号。基準となる音符の1分間の演奏回数がメトロノームの拍数に合わせて示される。本論文では基準となる音符は全て四分音符とする。

3. 調査手順

研究は以下の通りに進める。

- ① 流行歌の選定基準を決め選曲
- ② 各年の日本と世界の時代背景を整理
- ③ 歌詞の内容をプルチックの感情の輪をもとにして曲ごとに分類
- ④ 音楽的な観点で歌手や曲、音楽産業の変化を調査
- ⑤ ③と④の結果を②の整理状況と照らし合わせる
- ⑥ 考察

4. 調査方法

4.1 流行歌の選定基準

Billboard JAPAN Year End HOT 100のチャートで2008年から2021年の上位2曲から選曲をした。流行歌を定義するにあたって8種類のデータからなるBillboard JAPAN HOT 100は現代の日本の流行歌として最もふさわしいと判断したため、本論文では流行歌をBillboard JAPAN HOT 100と定義する。その中でも今回は年ごとに分けて曲の分析を行うためYear Endのチャートを用いる。

4.2 歌詞の分類

選曲した楽曲ごとに歌詞のひとまとまりになっている感情表現を抜き出し、プルチックの感情の輪を参考に、8つの基本感情（喜び・信頼・恐れ・驚き・悲しみ・嫌悪・怒り・期待）と隣り合う基本感情が同時に起こって生まれる二次感情（愛・服従・畏怖・拒絶・後悔・軽蔑・攻撃・楽観）の計16の感情に分類していく。出てきた回数を、曲ごとにレーダーチャートに当てはめて分析を行う。

4.3 音楽的な変化

以下の3つの観点を音楽的な変化とする

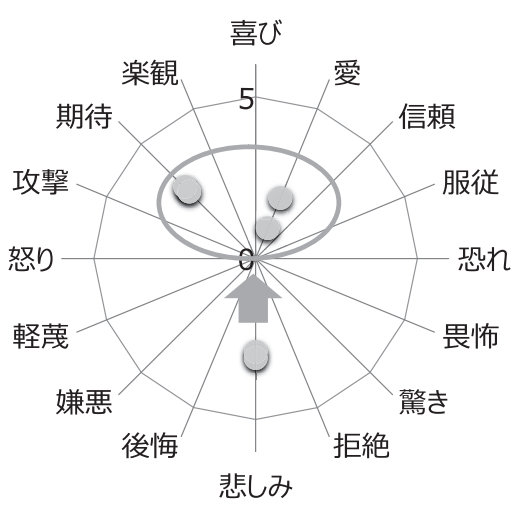
- ① 選曲した各年における歌手の変化
年ごとに選曲した楽曲ごとに歌手のジャンルを調べて年代ごとに整理する
- ② 選曲した2曲の早さの比較
メトロノーム記号を用いて2曲の速さを比較し、年代ごとの推移を調べる
- ③ 日本の音楽業界の変化
日本の音楽産業の歴史を年代ごとに整理し、変化点を調べる

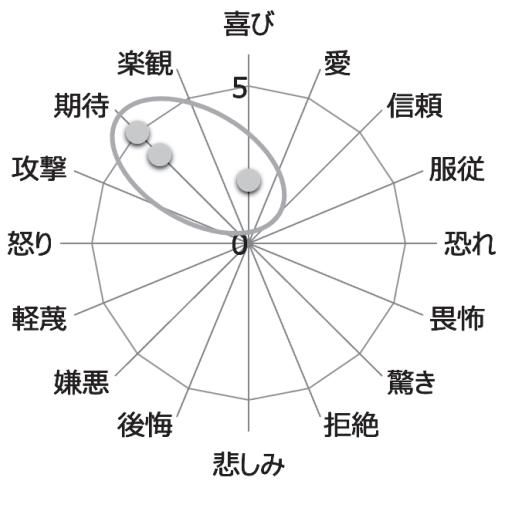
5. 調査

5.1 歌詞の分類

各年代ごとに歌詞の分析を行い、プルチックの感情の輪に基づくレーダーチャートに当てはめた分析結果を以下に示す。なお、各レーダーチャートは、年代ごとに選曲した2曲の分析結果を1つのレーダーチャートにまとめたものである。

本論文では、特に社会背景と歌詞の分析に基づく感情の分布との関係性が分かりやすかった2011年と2012年および2020年と2021年の分類結果を例示する。

2011年	
社 会 背 景	東日本大震災、女子サッカー W杯優勝
歌詞の分析	
考 察	「悲しみ」「愛」「期待」の割合が高くなっている。 このことから震災による悲しみから復興へ向けて期待が高まり始めたと推察される。

2012年	
社 会 背 景	山中伸弥教授ノーベル賞受賞、ロンドン五輪開催
歌詞の分析	
考 察	「期待」「喜び」の割合が高い。 このことから東日本大震災からの復興や、ロンドン五輪への期待が現れていると推察される。

2020年	
社会背景	WHO新型コロナウイルスパンデミック宣言、東京五輪の開催延期
歌詞の分析	
考察	感情の散らばりが大きいですが、その中でもネガティブな感情の出現割合が高い。 このことから新型コロナウイルスに対する人々の不安や嫌悪感が現れていると推察される。

2021年	
社会背景	新型コロナウイルス変異株による急激な感染拡大、 新型コロナウイルスワクチンの接種開始、東京五輪開催
歌詞の分析	
考察	感情の散らばりが大きいですが、その中でもポジティブな感情の出現割合が高い。 このことから新型コロナウイルスワクチンや、東京五輪に対する期待が現れていると推察される。

5.2 音楽的な変化（歌手）

年ごとに選定した曲のアーティストをみると、特にアイドルgrとシンガーソングライターの割合が大きく変化していたため図に示す。

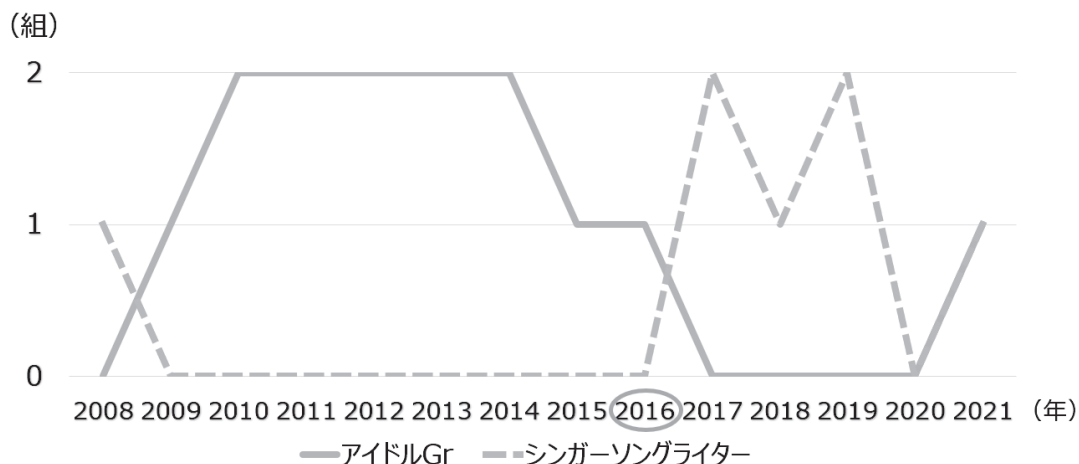


図2：選曲した各年における歌手の変化（アイドルgrとシンガーソングライター）

2016年頃を境にアイドルgrの割合が減少をし、シンガーソングライターの割合が増加していることが読み取れる。

5.2 音楽的な変化（曲）

1位と2位のポイントの差が大きいほど2曲の速さの差が大きくなっていることを示している。



図3：選曲した2曲の速さの比較

2016年頃を境に2曲の速さの差が大きくなっていることが読み取れる。

5.1、5.2より2016年頃を境に音楽的に変化をしていることが分かった。そこで2016年頃日本の音楽産業で何か変化が起きたと推察をし、日本の音楽産業の歴史を調査することにした。

5.3 音楽的な変化（音楽産業）

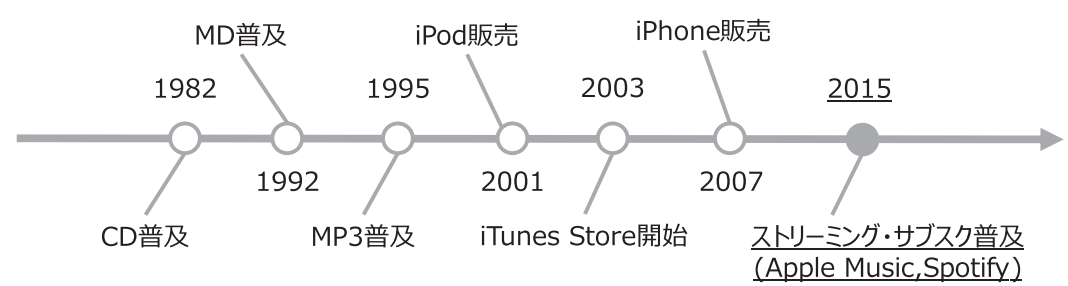


図3：日本の音楽産業の歴史と発展

1982年からCDの普及が始まり、その後1992年にMD、1995年にはMP3が普及し始めた。2003年になるとiTunes Storeで音楽のネット配信が開始始まり、音楽配信のビジネスが盛んとなった。そして2015年以降、ストリーミングや月額課金・使いたい放題のサブスクリプション（サブスク）型のビジネスが開始された。

サブスクリプション型のビジネスが開始されるまでは、簡単に様々な種類の音楽を聴くことができなかった。だが、2015年以降サブスクリプション型のビジネスが開始されることで、誰でも手軽に様々な種類の音楽を聴けるようになったのではないかと推察をした。

歌手名	特徴
Mrs.GREEN APPLE, Official髭男dism	高音を歌う男性のボーカルの曲
Ado, YOASOBI	ボーカロイド系のテンポの速い曲
BTS, エド・シーラン	海外アーティストの曲

図5：近年流行している多様な種類のアーティスト

近年は、男性ボーカルが歌う高音の曲、ボーカロイド系のテンポの速い曲や海外のアーティストの曲など様々な種類のアーティストの曲が流行していることが分かった。

6. 考察

6.1 調査により分かったこと

5.1と5.2の結果より、どの年代も歌詞の分析に基づく感情の分布および音楽的な変化は、いずれも社会背景と関係性があった。また5.3からわかるようにサブスクリプション型のビジネスが開始されたことにより、好きなアーティストのCDやMDを買って音楽を聴く時代から、手軽に様々なアーティストの音楽を幅広く聴く時代になった。

6.2 近い将来の流行傾向の予想

6.1の結果をもとに近い将来の流行歌を予想する。

これからも引き続き時代背景に合った曲が引き続き好まれて聴かれていくだろう。また今後コロナウイルスが収まると（2022年現在から）コンサートなどで人が集まって楽しめるような、明るい音楽が好まれて聴かれるだろう。そして新型コロナウイルス流行など人々が経験したことの無い状況下では、今までになかった様々な形の音楽が積極的に生み出され、好まれて聴かれていくのではないだろうか。

7. 参考文献

大出彩・松本文子・金子貴昭（2013）「流行歌から見る歌詞の年代別化」

歌詞検索サービス歌ネット

<https://www.uta-net.com> （2022年7月2日）

読売新聞オンライン（2022年6月12日）

<https://www.yomiuri.co.jp/feature/top10news/> （2022年6月12日）

Billboard JAPAN

<https://www.billboard-japan.com> （2022年6月18日）

JJJI.COM

https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_soc_general-10bignews-top
（2022年6月12日）

XERA | 通信系サービスをわかりやすく解説

<http://xera.jp/entry/musicology> （2022年9月25日）

Web活用術。-個人時代のビジネス力・魅力をあげる戦略学習サイト

<https://swingroot.com/plutchik-emotion/> （2022年7月10日）